

学力向上だより 第13号

(2月1日発行)

文責 学力向上担当 蓮田 健



武雄中学校教育目標
高い志と誇りを持ち、心豊かで輝く生徒の育成

<高校入試直前コラム3>

出るのが確実な問題に備えを 限られた日数、対応に労力要らない問題をおさらい

県立入試本番まで、あと4週間余りとなりました。残された日数からして、それほど多くのことはできません。そこで今回は、限られた日数で何をやればいいのかを考えてみることにしましょう。

筆者のおすすめは、出題されることがほぼ確実で、なおかつ対応にそれほど多くの時間を要しない問題のおさらいです。筆者はこれを毎年必ず出されるという意味で「レギュラー問題」と名付けていますが、人によっては「定番問題」、「点取り問題」、「サービス問題」と呼んだりもするようです。

■8年連続なら9年目もありそうだと考える

「レギュラー問題」の典型は、国語・古文の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題です。22年度から29年度まで8年連続で出題されています(※注)から、普通に考えれば30年度も出る可能性はきわめて高いのです。29年度は「問ふやう」を「問うよう」へ、つまり「ふ→う」、「や→よ」と改めればよいのですが、何と正答率は50%ほどでした。出題されるのが分かっているながら、また、その対応に大した労力が要らないにも関わらず、準備を怠った受験生がいかにか多かったかということです。

■覚えることが僅かであれば今からでも十分間に合う

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す際には、いくつかのルールがありますが、埼玉県では「はひふへほ」は「わいうえお」に直すというルールを知っているかが繰り返し出題されています。8年間のうち7回問われています。ちなみにここ2年は「や→よ」が続いています。

出ることがほぼ確実と分かっているにもかかわらず、今からでは対応が間に合いそうもないという種類の問題もありますが、その点、仮名遣いの問題は覚えることが僅かですから、3週間もあれば十分に対応できるでしょう。

■出るのが確実な問題をどのように発見するか

何がレギュラー問題なのかは、過去問の中から発見すればいいわけですが、それには同じ大問番号同じ小問番号の問題を立て続けにやることです。筆者はこれを「過去問はタテではなくヨコでやれ」と言っています。このような方法で、出るのが確実なおかつ今からでも対応できる知識を発見しましょう。

■梅野弘之氏

教育ジャーナリスト。元埼玉県公立高校教諭。

2018.1.22 = 埼玉新聞 WEB 版 =

※注 佐賀県の国語においても全く同じ傾向で出題されています。
また、本文の内容を若干省略しています。